

道路空間や地域特性に適応した道路緑化手法

(研究期間：平成29年度～平成30年度)

社会資本マネジメント研究センター 緑化生態研究室
主任研究官 飯塚 康雄 室長 舟久保 敏



(キーワード) 道路緑化、街路樹、地域特性

1. はじめに

道路緑化においては、道路空間との適合性や植栽後の維持管理水準の設定が不適切と考えられる事例がみられ、植物の経年的な成長とともに道路利用者の見通しの阻害や通行障害等が発生している。このような状況の中で、緑化機能を総合的に発揮できる質の高い緑化を行うことにより道路空間や地域の価値向上を図ることが求められている。

国総研では、道路交通機能の確保を前提として道路空間や地域特性に応じた質の高い緑化を行うための設計・管理手法を検討している。

2. 道路空間に適応した道路緑化手法の検討

道路緑化に起因する交通障害は、主に見通し阻害、標識視認阻害、信号視認阻害、照明照射阻害、建築限界越境、架空線干渉、防護柵接触、縁石持ち上げ・歩道不陸、歩行者通行障害、隣接公園樹木との競合の10タイプに類別される。これらの発生要因としては、樹木や道路附属物の配置が不適切、植栽樹種が道路空間に対して不適合、樹木の維持管理が不十分ということがあげられ、この改善策として、設計時においては交通障害を発生させない植栽配置、道路附属物との配置調整、植物の成長特性を踏まえた樹種選定が、維持管理時においては適切な樹木剪定、植栽基盤の改良等が重要となる(図1、2)。

3. 地域特性を活かした道路緑化手法の検討

街路樹により地域の価値向上を行うためには、地域特性を踏まえたシンボル性、季節感の創出、文化・イベントとの連携、歴史性との調和、地域特産物の装飾などによる演出が効果的である(写真1)。さらに、雨水貯留・浸透や防火帯などの防災や花壇づくりなどの地域活性化も含めたグリーンインフラとしての多機能性を発揮させることも有効である。

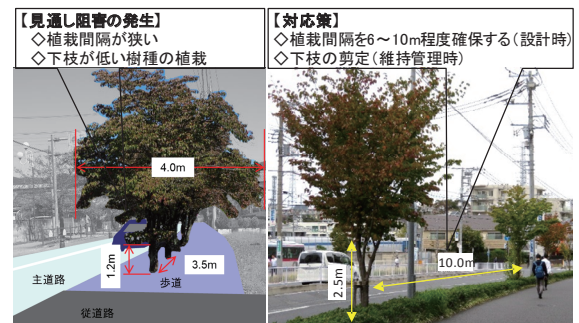


図1 街路樹による見通し阻害と対策事例

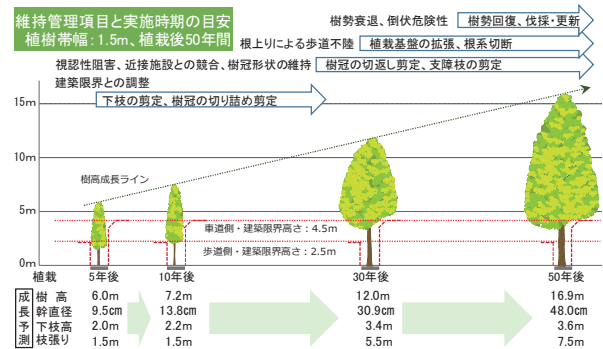


図2 街路樹の適切な維持管理計画の例(イチョウ)



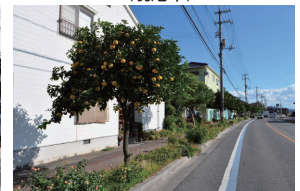
マツの雪吊りによる季節感の演出(天童市)



地域キャラクターとの連携(境港市)



イヌマキによる歴史環境との調和(平戸市)



地域特産物・ハッサクによる装飾(尾道市)

写真1 街路樹による地域特性の演出事例

4. おわりに

本成果は、緑化事例紹介を含め、現場担当者が活用できる道路空間や地域特性に配慮した質の高い道路緑化方法の手引きとしてとりまとめる予定である。